

令和7年度

国府中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎基本の定着を図る分かりやすい授業の実施
- ② 基礎学力の向上のため、家庭学習の定着
- ③ 認め合い、話し合い、学びあう授業の実践

校長

澤口 博之

学力向上推進員

推進員: 多田 真悠 若槻晃太郎
 校長: 澤口博之 教頭: 吉本真由美 江東克彦
 教務: 岡本裕志 研修主任: 和田由佳
 教科主任: 藤村義之 三谷あおい 小山祐真 篠原明子

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の基本的な知識を習得できている生徒が多い。 ○予習・復習を行い、課題提出のルールを守る生徒が多い。 ●生徒によって基礎知識や計算・漢字などの技能が十分に定着していない。 ●家庭学習や計画的な学習習慣が身につけていない生徒がいる。 ●既習事項の応用や発展問題への取り組みが難しい状況である。	・計算や漢字などの基本技能を身につけ、知識を活かして新たな課題に気づくことができる。 ・学校と家庭の学びを結び、計画的かつ継続的な学習習慣を身につけることができる。 ・自信を持って意見を発信し、仲間との議論や協働を通じて相互に学びあうことができる。	・視覚的・体験的な教材を活用し、段階的な確認や小テストを行い生徒一人ひとりの理解を丁寧にサポートする。 ・生徒が自ら学習計画を立てる支援と、具体的な家庭学習の方法提示、保護者との連携を通じて自立学習を促進する。 ・話し合いや発表を取り入れ、生徒同士が意見交換を行いながら「なぜそうなるのか」を追求し、知識の定着を図る。		・アンケートの結果から、学習内容を理解していると答えた生徒が多いが、難しい問題でも自ら解決策を見つけようと粘り強く取り組むことができたという生徒は、それよりも少なかった。 ・家庭学習の計画を立てる機会を、定期テスト前に取ったが、学習方法の提示や、計画の頻度、保護者との連携は不十分だった。 ・日々の学習時間を計画し、それを実行できた生徒は、38%ほどだった。 ・授業で自分の意見や考えを発表できた生徒は64%だったため、徳島版読解力にお	・自ら課題に気づいたり、難しい問題でも粘り強く取り組んだりする力を身につけさせるため、基礎的な問題から、応用問題まで、スモールステップでチャレンジできるようにする。 ・学習計画を立てる活動を、定期テスト前だけでなく日頃から行うようし、教員や保護者と共に確認できるようにする。 ・話し合いの仕方や発表の仕方のモデルを示し、発言しやすい環境づくりを行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○数学や理科では、複数の解法を模索し、筋道を立てて自分なりの結論を導くことができる生徒がいる。 ○文章や口頭、ICTなど多様な手段で自分の考えを伝える能力が向上している。 ○グループ活動などで情報整理や適切な判断ができ、議論を通じた学びが進んでいる。 ●一つの解答に固執し、新しい視点やアプローチを試みるのが難しい生徒がいる。 ●選択の理由を明確に説明する力が不足し、「なんとなく」に頼る傾向がある。 ●自分の考えを整理する方法が十分に活用できず、発表や議論に苦手意識が見られる。	・問題に対して柔軟な発想と論理的思考を駆使し、複数の解決策を導き、得た情報を整理して適切な判断ができる。 ・自分の選択や意見の根拠を明確に言語化し、論理的に組み立てた文章や口頭で表現できる。 ・自信をもって意見を発表し、他者の意見を尊重しながら議論に参加できる。	・多様なアプローチを活用し、一つの問題に対して複数の解決策を模索する授業を展開し、実験やシミュレーションで試行錯誤を促す。 ・深掘りする問いかけや資料・データ分析を取り入れ、論理的な思考力と情報整理能力を養う。 ・口頭発表やポスター、映像制作など多様な発表機会とグループ学習を通して、生徒が自信を持って意見交換できる環境を整える。		・アンケートの結果では、理由や根拠を明らかにして、相手に伝わるように説明することが「できた」と答えた生徒は26%であり、「少しできた」と答えた生徒は49%であった。高い割合ではあるが、自信のなさが見受けられる。 ・意見を聞き、自分で考えを見直したり、深めたりすることが「できた」と答えた生徒は48%「少しできた」と答えた生徒は40%だった。	・理由や根拠を明らかにして説明するような発問や問題を出題するようにして、相手に論理的に説明する機会を用意するようにする。 ・ワークシートなどを活用し、自分の意見や考えを明確にしたうえで、友達の意見や考えを聞き、意見の変容を明らかにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中に集中して取り組み、ノート整理や早着席、授業準備など自己管理ができる。 ○教員の問いかけに反応し、グループやペア活動を通して自発的に参加できる。 ○課題の提出期限を守り、計画的に学習を進める習慣が形成されつつある。 ●自ら質問したり、学習方法を工夫する自発性が十分に発揮できない。 ●家庭学習の継続や学習計画の立案が不十分で、目的意識が弱く受け身になりがちである。 ●話し合いの場面で自分の意見を積極的に発信し、他者の視点を取り入れて考えを深化させることができない。	・授業や家庭学習に積極的に取り組み、自ら課題を発見し、解決のために工夫することができる。 ・自分で学習計画を立て、目的意識をもちながら振り返りを行い、学習の質を向上させることができる。 ・話し合いや発表の場面で自信をもって意見を伝え、他者の意見を取り入れて新たな考えを導くことができる。	・探究的学習活動を導入し、興味を引く課題設定や実験、体験学習を通して生徒が自ら調べ考える機会を増やす。 ・生徒自身に学習内容や目標を設定させ、振り返りや学習計画の立案を指導する。 ・対話型授業を推進し、グループワークやディスカッション、発表活動を通して意見交換や表現力を高める機会を設ける。 ・家庭学習との連携を図り、具体的な学習方法の提示や振り返りシートの活用で学びを客観的に捉える習慣を育む。		・振り返りシートを用いて、生徒に課題解決の見直しを持たせることができた。 ・生徒が目標を設定したり、学習計画を立てたりする活動は十分ではなかった。 ・授業を受けることで、問題に対する考え方や解き方が深まったと思うという質問に「そう思う」と答えた生徒は56%で、「少し思う」と答えた生徒は38%であった。ほとんどの生徒が授業に積極的に取り組むことができているようである。 ・平日に3時間以上学習している生徒は17%、2～3時間は25%、1～2時間は35%、1時間未満は23%であり、家庭での学習時間が十分に確保されていないことが分かった。	・次年度も引き続き振り返りシートを活用する。 ・生徒自身が学習の目標を設定し、それを達成するための計画を立てることができるようにする。 ・引き続き、探究的学習活動を導入し、生徒が積極的に授業に取り組むことができるようにする。 ・家庭での学習時間を確保するために、家庭学習の仕方や時間の作り方などを指導したり啓発したりする。